

これからの SAT_YSF_I に望むこと

@Nmatician

2021 年 6 月 26 日

はじめに

自己紹介

- Twitter: @Nmatician
- Github: enunun
- 材料系修士卒（非情報系かつ非プログラマ）
- ソフトウェア開発に関しては素人
 - Github のページにはろくなものはない
- （今のところ）SAT_YSF_I のエンドユーザー
 - 本格的に触りだしておよそ 1 ヶ月
- L^AT_EX と SAT_YSF_I を反復横跳び
 - L^AT_EX とはそれなりに長い付き合い

L^AT_EX と SAT_YSF_I

- SAT_YSF_I は T_EX/L^AT_EX と比較して優位な点も多い
 - 事前の型検査によるエラー報告の精密さ
 - ライセンスがめんどくさくない
- 特にパッケージ開発のしやすさはトッテモスバラシイ
 - 名前空間の分離
 - 「第 0 引数」による周辺の文脈の利用
 - 便利なローカル変数
- 「巨人」たる L^AT_EX を参考にした部分が多い
 - これは変えたほうがいいのでは？と思う部分もそれなりに

開発側に望むこと

文書構造の記述方法

- 文書構造は見出しの名前で記述
 - +chapter, +section, +p 等
- 文書構造だけではなく「そのレベルの呼び名」も含む
- 各レベルの「呼び名」は文書構造の記述には不要では？
 - 従属関係のみが本質的なはず
- Markdown では「#」の数で表現
 - じゃあ Markdown 使えば？ → 表現能力
- あと +p するのがめんどくさい（本音）
- パッケージ製作者にも多大な影響
 - v.0.x の今のうちに

相互参照の名前空間の分離

- 相互参照はキーと番号の対応を読み取ってなされる
 - .satysfi-aux ファイルにキーと番号の対応が記録
- 「図」や「定理」等の型は記録されず
 - 自動補完させたいときに非常に面倒
- L^AT_EX では cleveref パッケージが有名
 - 読み込み時は \label コマンドにオプション引数が追加
 - 識別子の名前空間の分離が可能
- 要するに cleveref パッケージ相当の機能が欲しい
 - プリミティブでインターフェース提供？

コミュニティに望むこと

パッケージ開発のノウハウ共有

- L^AT_EX における悲劇その 1: titlesec パッケージ
 - 節見出しの体裁を変える **パッケージ**
 - 節見出しはドキュメントクラス担当のハズ . . .
- L^AT_EX における悲劇その 2: authblk パッケージ
 - 複数著者や所属の記述に対応する **パッケージ**
 - hyperref パッケージのオプションと衝突
- ドキュメントクラスの該当部分を \renewcommand で解決 (?)
- 目次の体裁だともっと面倒
- ドキュメントクラスに関する知識があれば **自力** で解決可能
 - 気軽に開発に関われる土壌づくりが重要

ソースの軽率な公開

- SAT_YSF_I はまだパッケージが少ない
 - 欲しい機能は自分で実装する必要
 - しかしどうやればいいのかわからない . . .
 - ソースがなければ解決した人がいてもパクれない
- Github にあるのはパッケージとそのドキュメントが中心
 - もっと実践的な文書作成例が必要
- お前ら PDF だけ挙げるなソースも挙げる
 - 例 : <https://github.com/enunun/quoset>
 - このスライドも (<https://github.com/enunun/satyconf2021>)
 - これだけでコミュニティに貢献できる (後述)

ソースの公開先

- 今のところ Github がおすすめ
 - 個人で文書を書くだけなので add, commit, push で OK
 - SAT_YSF_I は現在 linguist のサポート外
 - ユニークなリポジトリ数が不足
- 怪文書を作ってリポジトリを作るだけでコミュニティに貢献！
 - このスライドも貢献にカウント（たぶん）
- 挙げるときはライセンスをちゃんと書こう
 - MIT ライセンスがおすすめ
 - コードをコピペしたときはコピペ元のライセンスに注意

Let's SAT_YSF_I!!